

東大寺かいわい

週刊 まちぶら 番外編

罪を悔い 1260回目の春

夜の闇に松明の火の粉が舞い、無窮尽の御利益にあやからうと参拝客が火の粉を浴びる。古都・奈良に春を告げる東大寺二月堂の修二会(お水取り)。本行は3月1日から14日まで2週間も続き、12日には長さ8尺、重さ60・70kgの籠松明が登場する。でも、森本公誠長老は「お松明だけを見て帰るのはもったいない」といふ。(田中祐也)



火の粉を散らしながら二月堂の舞台を回る籠松明(5分間露光)⇒2010年3月12日、奈良市の東大寺

松明は、夜の法会のため二月堂に向かう練行衆(こもりの僧)の足元を照らすものだ。「これから罪を悔い、国家の安定、国民の幸福を観音菩薩に祈る。それにあざわしい精神になつてゐるか」。30回近く練行衆を経験した森本長老は毎回、松明の後ろで自分に問いかけたといふ。

修二会は752年に始まり、今年で1260回目。一度も途絶えることなく続いてきた。練行衆の11人は2月20日から寺にこもり、俗世との関わりを絶つ。羞恥という覆物を作つたり、節のついた声明と呼ばれるお経の稽古をしたり。26日からお経の大広間で寝食をともにし、外は禁止。私語も許されない。

3月1日から本行が始まると、毎日6回、本尊の十一面観音菩薩に一年の罪をひたすら懺悔し、新たな一年の平和や幸福を祈る(六時の行法)。行が終ると、毎日6回、本尊の十一面観音菩薩に一年の罪をひたすら懺悔し、新たな一年の平和や幸福を祈る(六時の行法)。行が終ると、毎日6回、本尊の十一面観音菩薩に一年の罪をひたすら懺悔し、新たな一年の平和や幸福を祈る(六時の行法)。

松明見物だけもったいない

23日、二月堂の本尊を飾るツバキの造花を練行衆ら表情は硬く、大切な行のひが作る「花ごしらえ」を取った。一見、楽しい作業

記者ナビ



修二会はまた見たことがない。練行衆がこもること、お水取りの言葉の意味も知らなかった。でも、声明の高い音楽性、五体投地の所作など知識が増えるた

車、徒歩約10分。近鉄奈良駅からは徒歩約30分。車の場合、付近の駐車場が満車になることもあるので注意が必要。夜は冷えるので防寒対策は万全に。

アクセス

東大寺二月堂へは、JR・近鉄奈良駅から市内循環バス「大仏殿春日大社前」で下

プレゼント



二月堂の南にある茶所、龍美堂の「行法味噌」写真1冊を5人にプレゼントします。大豆やコボウなどで作られ、修二会の荒行に耐える練行衆が「行力を増す」と愛用するみそです。温かいご飯、田菜やあそぎ酒のおつまみに最適です。はがきに住所、氏名、年齢、電話番号「まちぶら・東大寺」の感想や意見を記入のうえ、〒680-0800 奈良市三条大路1-9の17、朝日新聞奈良総局までお送りください。3月4日必着。当選発表は発表後です。つけてお返しさせていただきます。

次回は、近畿の酒蔵を紹介する「うまい地元の酒が飲みたい」です。